

NOMA ハンド・ラボ夏期セミナー2009 開催いたしました！

NOMAハンド・ラボ夏期セミナー2009



手を診る力(ちから)を鍛える

—手のかたち・手の動き、診断への手ほどき—

8月30日(日)に埼玉県立大学において、NOMA ハンドラボ夏期セミナー2009を開催しました。当日は、全国から51名が参加されました(定員50名)。

これまで2007年、2008年は、ワークショップ形式で『NOMA手・上肢機能診断』の実習を中心に実施してきた夏期セミナーですが、今回は「手を診る力(ちから)を鍛える—手のかたち・手の動き、診断への手ほどき—」というテーマで、同診断を活用するためにも必要な健常手のかたちと動きの類型を理解して頂くための内容のセミナーと致しました。

参加者には、テキストのほかに、ハサミや割り箸、ミニボトル、鉛筆、カードなどの道具が用意されており、実際に手の動きを体験しながら手についての理解を深めていくセミナーとなりました。



第1部は、「手の機能を診る視点」という内容の講義でした。実例映像を観ながら、どのような視点で手のフォーム・パターンを捉えているのか、さらに治療への展開についての説明がありました。その時々で、実際に道具を手にして自分達がどのようなフォームをとっているかを観察する場面もあり、皆さん真剣に取り組んでいました。

第2部では、「手の静的フォーム（把握と非把握の種類）」について、どのように分類しているのか、それぞれのフォームの特徴など詳細な説明がありました。参加者の皆さんも実際に体験することで、自分のフォームや個人差などを知る機会になったと思われます。

第3部は、「手の動きのパターン（表記法と基本類型）」ということで、XYZOを利用した動きのパターンの表記と分類についての解説がありました。動きを記号化することで多様な手指の動きを簡単に記録できる方法であり、複雑な手の動きを捉えるのに便利であり、知っておくと多くの場面での活用もできると思われます。



第4部では、「フォーム・パターン表記を使ってできること」という内容で、コーン、コイン、携帯、箸の4物品の操作について、パターンの分析とその表記を体験しながらの講義となりました。表記法を初めて体験された方ばかりでしたが、皆さんすぐに理解されていた様子でした。特に箸の操作パターンの評価や訓練に関しては、普段臨床でも遭遇することでもあり、興味をそそられていたようです。

第5部では、『NOMA手・上肢機能診断』についての説明がありました。今回のセミナーの大部分は診断法を離れた手のかたちと動きの説明が中心でしたが、この第5部のみは診断法の全体を紹介する内容でした。同診断は検査項目も多く、検査所要時間も長くかかりますが、複雑な手の機能を考えると、同診断を活用することは手の評価の一助となるものと考えます。受講者の多くは同診断を使用したことのない先生方であり、今回のセミナーを通して、『NOMA手・上肢機能診断』について興味を持って頂いたのではないかと思います。

1日で理解するには、盛りだくさんの内容でしたが、最後には多くの質問やご意見を伺うことができました。（山口美樹記）